

時代	近現代	
空襲と防空監視哨 ～発掘でわかる防空体制～		
大戦の末期になると空襲に備えるための防空体制が整備され、県内 28 箇所に防空監視哨が設置されました。また、斐川町の出西飛行場には高射砲陣地が築られました。		



図1 西郷の見張り所



図2 発掘された陶磁器類

底に戦時下を示す統制番号がついています。↑



きたはま
～北浜防空監視哨(出雲市十六島町)～



図3 北浜の見張り所

直径約4m、深さ約2mのコンクリート製の筒が埋め込んであります。この中に入って目と耳で敵機の襲来を監視しました。記録によると4本の柱の上に萱がかけてあったそうです。



図4 聴音壕

しゅっさい
～出西飛行場の高射砲陣地(斐川町)～



図5

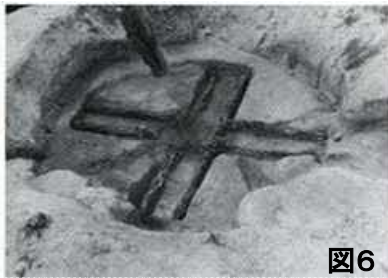


図6

出西飛行場は、1945年7月、県下で初めて空襲がありました。発掘された高射砲陣地は、土塁に囲まれ、中から土台に使われた角材やボルト、ナットが発見されました。

出典：解説・・・(図1,2)『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001 島根県教育委員会 (図3, 4) 埋蔵文化財調査センター提供
(図5, 6)『平野遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』1983 斐川町教育委員会
ワーク・・・(内部の様子の写真) 埋蔵文化財調査センター提供

はくくつ
～発掘でわかる戦争への備え～

年 組 名前

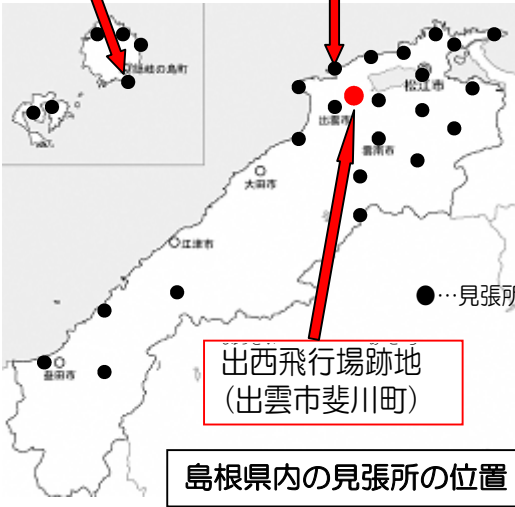
だいにしせかいだいせん
第二次世界大戦の末期になると、空襲に備えるための敵機の見張所や飛行場を守るための
こうしゃほうじんち
高射砲陣地が築られました。

challenge

① 右の2枚の写真は、敵機の襲来をみつけるための見張所でした。つくられた場所に共通する点は何でしょう？

さいごう
西郷の見張所

きたはま
北浜の見張所(出雲市十六島町)



② この穴は何でしょう？



(外から)



(内部の様子)

ヒント・・・中に入って耳をすま
せば・・・聴音壕といします。



直径約4メートル、深さ約2メートルのコンクリート製の筒が埋め込んであります。

しゅっさい
コラム ～出西飛行場の高射砲陣地(斐川町)～

出西飛行場は、1945年7月、島根県で初めて空襲がありました。発掘された高射砲陣地からは、土台に使われた角材やボルト、ナットが発見されました。写真の丸い穴の上に高射砲が置かれていました。



高射砲陣地の跡